

農業担い手メールマガジン（第127号）

インデックス

- 現場の皆さんへ ～圧縮記帳について～
- 事業活用のポイント ～『農』の雇用事業」募集中です！～
- 農業担い手経営相談コーナー ～今年産米の作況について～
- お知らせ ～農林水産省メールマガジンをリニューアル！～

現場の皆さんへ ～圧縮記帳について～

前回のメルマガ第126号では、農業機械を調達する方法についてご紹介しましたが、反響をいただき、どうもありがとうございました。今回はその中で特に問い合わせをいただいた「【方法2】補助金を活用する」の「圧縮記帳により、補助金受取に伴う課税の繰り延べが可能です。」という内容について、もう少し詳しく解説したいと思います。

圧縮記帳は、固定資産の取得などを目的とした補助金を受けた場合に、その年の課税対象額が多くなるのを避け、納税額を平準化する（負担を将来に繰り延べて、特定の時点に集中しないようにする）ための制度です。通常、受け取った補助金は、その年の収入金額とみなされ納税額が高くなります。そこで、補助金相当額を収入金額に算入しないことによって、補助金を受け入れた年の納税額を抑え、平準化を図ることによって、補助金の効果を減殺しないための制度が認められています。

ただしこの場合、購入した農業機械などの固定資産の取得額が減額（圧縮記帳）されるため、毎年の費用として計上される減価償却費が少額となり、その分、納税額が増加することになります。

一方、圧縮記帳を行わない場合は、減価償却費は通常通りの計上となるため、圧縮記帳した場合に比べて毎年の納税額は抑えられますが、補助金を受けた年は、前述のとおり、補助金額が丸々課税所得となり納税額が高くなります。

結局、毎年の所得と税率が変わらなければ、圧縮記帳をしてもしなくても納税額のトータルは変わりませんが、特に所得税は累進課税となっているため、平準化したほうが納税額が少額となることが期待できます。

なお、制度の適用を受けるには、その旨や金額を確定申告書に記載するなど一定の手続が必要となります。

■ ご意見・ご質問は下記へお願いいたします

→ <https://www.contact.maff.go.jp/maff/form/fefe.html>

事業活用のポイント

～ 「『農』の雇用事業」募集中です！～

農林水産省では、新規就農者の確保・育成に資するため、農業法人等が就農希望者を新たに雇用する場合に、農業生産技術等をしっかり身に付けてもらうために実施する研修経費の一部を助成する「『農』の雇用事業」を実施しています。

この度、今年度第2回目の募集を500人規模で実施することといたしましたのでご活用ください。

- < 助成額 > (研修費) 研修生1人、月額上限97,000円、最長12ヶ月間
 (住居手当等) 研修生1人、月額上限33,000円、最長12ヶ月間
- < 応募先 > 各都道府県農業会議
- < 応募締切 > 平成21年11月27日(金)
 郵送の場合は、当日必着です。

■ 「『農』の雇用事業」の詳細は下記ホームページをご覧ください

→ <http://www.nca.or.jp/Be-farmer/nounokoyou/>

なお、全国新規就農相談センター(TEL:03-6910-1133)及び各都道府県の農業会議では、就農希望者を募集する農業法人等の皆様に対し、求人情報のホームページへの掲載など、求人活動をサポートしておりますのでご活用下さい。

農業担い手経営相談コーナー

～ 今年産米の作況について～

Q．今年産の米の収量はどのような見通しでしょうか。

A．10月30日に公表された「平成21年産水稻の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在)」では、今年産水稻の作況指数は、全国で98(「やや不良」)、10aあたりの予想収量は522kgとなっており、予想収穫量(主食用)は831万1,000トンが見込まれています。主食用米の作付見込面積は159万2,000haで、前年産に比べて4,000ha減りましたが、需要見通しの821万トンを10万1,000トン上回ることになります。

地域ブロック別でみると、北海道で「著しい不良」、東海、近畿で「やや不良」、沖縄で「やや良」、その他の地域では「平年並み」となっています(北海道:89、東北:100、北陸:99、関東・東山:99、東海:96、近畿:98、中国:99、四国:100、九州:101、沖縄:103)。

北海道では不稔もみの発生に加え、低温傾向であったために、登熟不良となりましたが、都府県では9月以降はおおむね天候に恵まれ、登熟はおおむね順調に推移すると見込まれます。

ちなみに、作況指数とは、作柄のよしあしを示す指標で、その年の「10a当たり平年収量」に対する「10a当たり収量」の比率を表したものです。作況指数が90以

下ならば「著しい不良」、91～94は「不良」、95～98は「やや不良」、99～101は「並」、102～105は「やや良」、106以上は「良」と区分しています。

稲の生育状況や収穫量等を把握するには、「水稻収穫量調査」を行います。都道府県ごとに水田の中から無作為抽出（くじ引き）によって調査を行う水田を選び出し、その調査水田ごとに3カ所（長方形の場合、水田の対角線の左上、中央、右下）を対象に水稻の作柄を調査します。

1㎡あたりの株数、1株当たりの穂数、1穂当たりのもみ数を掛け合わせて実測値を計算し、気象データ、過去の水稲実測データ等を参考にして予測値を推定します。

■ 農業経営に関するご相談、ご質問は下記へお願いいたします

→ <https://www.contact.maff.go.jp/maff/form/fefe.html>

お知らせ ～農林水産省メールマガジンをリニューアル！～

農林水産省メールマガジンは、食料の安定供給の確保、農林水産業の発展、農山漁村等の振興等に関する施策情報等について、原則、毎週金曜日に配信しているところですが、11月6日号からリニューアルしました。

新コーナーでは、赤松農林水産大臣をはじめ、副大臣、大臣政務官からのメッセージを毎週配信していきます。

まだ、農林水産省メールマガジンにご登録されていない方は、以下のアドレスから追加登録をお願いします。

■ 追加登録はこちら

→ <http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/chg.html>

編集後記

週末を利用して、学生時代にお世話になった地域で行われた収穫祭に行ってきました。

受付で地図と竹筒が渡され、地図を見てブラブラ歩いて農家の家に立ち寄り、首からぶら下げた竹筒で甘酒や日本酒を頂き、農家手作りの郷土料理を食べる、ということも素敵なお祭りでした。

美しい山々や昔ながらの民家といった街並みがお祭りに生かされていて、農村景観を存分に味わいながら、食事を味わうことができました。

久しぶりにお会いした農家の方々や農業関係者とお互いの近況報告をするとともに、地域の状況や農業経営などについても意見交換することができ、定期的に現場に足を運び、現場の皆さんと語り合う大切さを改めて感じました。 （K）

- 電子出版：農業担い手メールマガジン
- 発行日 ：毎月2回発行

- 発行元 : 農林水産省経営局経営政策課 担当: 加藤
農林水産省担い手ホームページもご覧ください!
~ 担い手への支援策、認定農業者数等、担い手情報満載!! ~
 - <http://www.maff.go.jp/j/ninaite/index.html>このメルマガの配信申込み、バックナンバーはこちらから
 - http://www.maff.go.jp/j/ninaite/n_mailmaga/index.htmlこのメルマガの配信変更、配信解除、パスワード再発行等はこちらから
 - <http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>